

アフリカ ケニアの豊かな大地に根づき、広がるEMの輪



ナイロビから北へ約200kmにあるニャルル県は比較的高地であり、温暖な気候と適度な降雨に恵まれ、ケニアでも有数のお茶の産地になっています。

多様な分野で進められるEM普及活動

ケニアでのEM普及活動は、農業分野、環境分野、ケニア政府との共同プロジェクトなど多様な分野で進められており、それらの活動はNPO法人アフリカ児童基金の会(ACEF)の現地に根づいた活動を土台に、EM研究機構の協力により進められています。

EM1号の現地普及は2002年ACEFがEM事業に特化したNPO法人EMケニアを設立し、EM研究機構との合意書締結により始まりまし。2004年には広くケニア市場へのEMの普及を進めるため、EMケニアの業務は会社法人EMテクノロジ社に引き継がれ、現在に至ります。

ケニアでの主なEMの活動は、農業や環境分野へのEMの供給、キハラスラム環境改善プロジェクト、ケニア有機農業学校(KOATEC)の活動などが進められています。

二ーズの拡大に合わせ規格認証にも対応
ケニアはアフリカ大陸の東、赤道直下に位置し、豊富な日照量と適度な降雨量がある地域が広がり、観光業と並んで農業が盛んな国です。また、

ヨーロッパへの航空ルートが近年整備され、ヨーロッパ市場への農作物の輸出も増加し続けています。
こうした条件から紅茶の生産量は世界第3位、また花きも農作物では紅茶に次ぐ輸出作物で、その他コーヒーなども輸出されています。これらの輸出作物は品質管理を厳しくしているだけでなく、ヨーロッパの資本で運営される加工場では環境面への配慮を目指していることから、農産品の品質向上や加工場の環境改善のためにEM技術の活用が広がっています。

一方、ケニアやウガンダなどの東アフリカ諸国では、今でも商取引の不正が非常に多いため、近年、商品の許認可の取得がとて厳しくなっており、EMを利用する側も許認可が取れている商品かどうかについて敏感になっています。こうした背景からEMテクノロジ社では一昨年EM1号の製造に関する工業規格KEBSの認証や、環境浄化用資材としてNEMAの認証も受け、市場の二ーズに合わせて対応しています。

※1 KOATEC Kenya Organic Agriculture Technical School ケニア有機農業学校

※2 KEBS Kenya Bureau of Standards ケニア標準機構

※3 NEMA National Environment Management Authority ケニア環境管理局



EMとEM堆肥を用いた有機栽培トマトは味もよく、通常のトマトより高値で取引されるため、EMを導入する農家が序々に増えています。



ケニアで生産される切り花は欧州などへ輸出されるため、品質は非常に厳しく管理されています。花の品質改良、病害虫の減少、切り花の白持ちが良くなるなどEMの効果が報告されています。

卒業生は自ら農業を始めたり、農薬法人に就職したりしています。
同校では2年間のEM技術を取り入れた農業者の養成やモデル農場での実習、農業者による有機農業セミナーが行われており、近年持続可能な農業や有機農業が見直されてきており、序々に修学希望者も増えていきます。また、こうしたカリキュラムの有用性は他校にも認知され始めており、2010年3月からはEMケニア大学と提携し、農業実習や講義などの交流を始めました。これにより、カリキュラムの内容がさらに充実するとともに、同校を卒業した生徒はKEMU大学に編入できるなど、進路の選択肢も幅が広がることになりました。

ケニアでの成果をアフリカ全体に推進

ケニアは政治や経済、また地理的にも東アフリカ諸国(タンザニア、ウガンダ、ルワンダ、ブルンジなど)の中心的な国であり、ケニアでのEM活動は近隣諸国での普及の後押しにもなっています。日本政府もアフリカ各国へのODA支援額を2012年までに倍増するなどの方針を打ち出しており、今後もアフリカの世界的な役割は高まっていくもの

と考えられています。経済の発展とともに環境分野への対策、安全で十分な食料を供給していくための農業など、アフリカにおいて、EMの活用は今後も広がるものと考えられます。

※4 KEMU Kenya Methodist University ケニアメソヂスト大学



ケニア有機農業学校ではEMを活用して、有機農業や持続可能な農業の講義が行われています。



日本政府の無償資金協力により建てられたケニア有機農業学校。



学校からでる生ごみより作られた堆肥を土壌にためて、野菜や花を植えます。移動可能なことから現地では「モバイルガーデン」と呼ばれています。



実習では堆肥づくりや、モデル農場の整備、畜産についても学習しています。



2年間のカリキュラムを終えて卒業する生徒達。

★次回は、「キハラスラム環境改善プロジェクト」について掲載します。